

鳥取県

モデル圏域 西部圏域

更なる連携強化による地域移行の推進 ～長期入院者のいそどりある人生を応援～

鳥取県西部圏域では・・・

平成15年度から退院促進モデル事業を開始しました。その後、推進会議（代表者会議）、連絡会（実務者会議）の開催を継続しながら、啓発教材の作成、当事者サポーター・地域移行推進ボランティアの養成、入院患者への地域移行支援説明会等、様々な取組を展開してきました。

その中で、医療機関と地域との顔の見える連携は構築されていますが、更なる連携強化を図るため、平成30年度から当該事業を実施しています。令和元年度は、前年度の取組を元に、ますますの浸透・定着を目指していきます。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 次年度実施予定のピアサポーター養成において、内容及び活躍の場を決定し、予算要求を行う。	養成内容及び活躍の場は決定し、予算要求の準備を行っている。
2. 「退院可能者への地域支援者訪問」において、地域支援者によって支援の差が生まれないよう、スキルの共有を行う。	地域移行連絡会(協議の場)で、実際の事例を用いて、ターニングポイントで実際にどのような支援を行ったかを、情報共有を行った。
3. 地域アセスメントを行う。	事務局が研修会を受講した。今後、地域の実情を把握し、地域アセスメントに繋げる。

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

平成15年度から退院促進モデル事業に取り組み、長年取り組みを継続する中で、地域移行を推進する基盤、顔の見える関係が構築できている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)		
①平成23年度以降、ピアサポーターの養成研修が行えていない。	地域移行を進めるうえで、ピアサポーターの役割は大きい。 ・次年度の養成に向けた準備	行政	体制整備	
		医療	ピアサポーターの活用	
		福祉	ピアサポーターの活用	
		その他関係機関・住民等	ピアサポーターの理解	
②「退院可能者への地域支援者訪問」の対象者数が、市町村により偏りがある。そのため、対象者が少ない市町村ではスキルが身につかない恐れがある。	市町村によってスキルに格差が生じないような仕組みづくりが必要。 ・協議の場で情報共有	行政	体制整備	
		医療	退院可能者の選定	
		福祉	市町村との協働支援、スキルの継承	
		その他関係機関・住民等		
③「退院可能者への地域支援者訪問」事業のさらなる浸透と定着を目指す。	地域支援者が早期に医療機関と連携を図れる体制づくり ・退院可能者への地域支援者訪問	行政	体制整備	
		医療	入院早期から退院に向けた支援	
		福祉	早期からの医療との連携	
		その他関係機関・住民等	精神障がい者の理解の促進	
課題解決の達成度を測る指標		現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①協議の場で次年度の養成に向けた検討を行う。				養成研修の内容・さらなる活躍の場の決定
②協議の場で、実際に支援を行った市町村から、支援の経過を話してもらう。				圏域内の全市町村のスキルアップにつなげる。
③退院率(3・6・12ヶ月)、長期入院患者数		630調査後に決定		退院率の上昇、長期入院患者数の減少

3 病院（医療機関）との連携状況

- 関係機関協議、地域移行連絡会、地域移行推進会議等の協議の場で、意見交換を行っている。
- 今年度は病院訪問を実施する予定にしており、個別的なニーズの聞き取りを行う予定。

4 現時点での課題・悩み

- ピアサポーターの活躍の場や雇用形態
- 市町村、関係機関によって地域移行事業に関する温度差がある。
- 精神障がい者が退院し地域へ戻る際に、地域住民から反対されることがある。地域住民の障がい者に対する理解を促し、さらには共に活動できるようにするための方策が必要。